

第5回伊達市総合教育会議 会 議 録

1 日 時

開 会 平成30年6月21日(木) 16時00分
閉 会 平成30年6月21日(木) 16時20分

2 場 所

市役所 2階会議室A・B

3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	菊 地 裕 子
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一

4 欠席した教育委員の氏名

なし

5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	大 矢 悟
企画課長	高 田 真 次
教育委員会	
教育部長	金 子 達 也
教育部参与	櫻 井 貴 志
学校教育課長	安 藤 隆
生涯学習課長	山 根 一 志
図書館長	竹 迫 知 美
食育センター所長	代 田 顕 靖
指導室参事	永 井 修
大滝教育事務所長	西 藤 毅
学校教育課企画総務係長	上 山 昭 二

開 会 （16時00分）

◎高田企画課長

本日は、お忙しいところお集りいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、第5回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。それでは、これより先の進行は菊谷市長よりお願いします。

◎菊谷市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、協議第1号の1案件につきまして、皆さんからのご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいいたします。

それでは、本日の協議事項に入りたいと思います。

協議第1号『公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）について』、学校教育課長より説明をお願いします。

◎安藤学校教育課長

今回の総合教育会議の議題については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1号に該当する事項であります。

それでは、早速、協議第1号「公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）」について、ご説明いたします。

既に報道等でご承知と思いますが、道教委は6月5日に、「公立高等学校配置計画案（平成31年度～33年度）」を発表し、平成33年度の高校配置計画案に、伊達緑丘高校が4学級から3学級に1学級減となる方針が、今回初めて示されたことから、その概要について、ご報告いたします。

別紙1「配置計画案」の1ページをご覧ください。1は、この配置計画にかかる趣旨について記載されており、毎年この時期に、今後3年間の計画とその後4年間の見通しが示されるものであります。2の中卒者数の見込みでは、全道の中卒者数の見込みが示されており、10ページから11ページにかけて、学区ごとの推計及び推移やグラフが掲載されています。3の基本的な考え方ですが、配置計画の策定に当たっては、平成18年8月に策定した「新たな高校教育に関する指針」の改訂版として、別紙2の資料となりますが、平成30年3月に策定された「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、中卒者数の増減や教育水準の維持向上など踏まえながら、望ましい規模の高校づくり等を推進すると記載されています。

次に、2ページをご覧ください。4の配置計画案の概要では、昨年決定された平成31年度と32年度の配置計画の一部変更が示されています。3ページには、新たに平成33年度の高校配置計画が示されています。その中の（ア）学級増減の中で、札幌真栄高校で1学級の増、滝川高校ほか15校で17学級の減を行うと記載されています。

その詳細は、4ページから9ページにかけて掲載されています。12ページ以降につきましては、各学区ごとの計画案が示されており、17ページに「胆振西学区高校配置計画案」が記載されていますのでご覧ください。表の上段が、学区内中卒者数で、H30は今年3月の卒業生徒の実数、H31からH37までは今後の見込みとなっており、胆振西学区全体では、平成31年～平成37年までの増減がマイナス372名、平成34年～平成37年までの増減がマイナス153名の見込みとなっています。また、その下に内訳として、室蘭、登別、伊達の3市のそれぞれの状況が記載されています。

さらに、表の下段が、胆振西学区の公立高校の今年度の学級数と5月1日現在の欠員、

そして、平成 31 年度から平成 33 年度までの計画案と平成 34 年度～平成 37 年度までの見通しとなっております。下から 5 番目の伊達高校につきましては、普通学科 3 学級、定員 120 名のところ 18 名の欠員が生じており、その下の伊達緑丘高校につきましては、普通学科 4 学級、定員 160 名のところ 16 名の欠員が生じており、平成 33 年度の計画案として、1 学級減が記載されております。

さらに、平成 34 年度～平成 37 年度までの見通しでは、3 つ目の丸印で、伊達市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要と記載されております。以上が、今回示された「公立高等学校配置計画案」の概要となります。

なお、参考資料として、別紙 3 につきましては、本市の中卒者の進路状況、過去 5 年分をまとめた資料で、別紙 4 は、道教委の資料とは若干人数に誤差がありますが、西胆振地区の 5 月 1 日現在の小中学校の児童・生徒数を単純に集計した資料となります。

最後に、別紙 5 の今後のスケジュールですが、7 月 19 日に、道教委主催による地域別検討協議会が行われ、その中での意見等を踏まえ、例年 9 月上旬に配置計画案が決定する予定となっております。以上、協議第 1 号の説明となります。

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、ご質問、ご意見はございませんか。

◎早瀬委員

3 学級になることでどのような影響がありますか。

◎影山教育長

4 学級から 3 学級になることで、生徒が 1 学級分減ることになります。

また、教員が 6 名程度減ることになります。そのことにより、理科や地理公民歴史が例にするとわかりやすいですが中学校までは理科でよいですが、高校になると専門性が高くなるので物理、生物、化学、地学の教員配置していくことになります。特に、大学進学を重点化しているような高校、本市で言えば伊達緑丘高校が該当するのですが、大学受験に対応するために教員を揃えていくことに対しては校長先生が苦勞すると思われま。

◎岩本委員

単純に子どもが少ないから 1 クラス減るというだけでなく、子どもたちにとって非常に大きな問題です。この地区には伊達高校と伊達緑丘高校があつて、役割分担というか子どもたちに多様性、選択肢となっております。進学を望む子や部活をしたい子どもたちに対して生徒・先生が減っていくと学校力が減っていくことになります。子どもの多様性に応えられなくなる危惧があります。

今年の 2 月に「伊達市教育振興基本計画策定委員会」が作成した「次期伊達市教育振興基本計画に関する提言書」の中で、高等学校教育のことが記載されており、伊達高校と伊達緑丘高校の 2 校が存続することが望ましい。ただし、両校の再編が避けられない場合は両校を合わせた学校規模に再編して大きい学校作って、そして、特色ある教育活動ができる学校、進学コースも設置してはどうかと記載されております。

そこで、高校という北海道が管轄している部分ですが、高校再編成を市から要望していくことは可能ですか。弱ってから統合するのではなく体力のあるうちに統合し、ある程度学校規模を保てる学校を作っていくことを提案して、子どもたちのいろいろなニーズに応えられ学校を力のある学校を積極的に仕掛けることが可能かどうか。そうであれば伊達市としてそういう選択肢もありうるのかどうか教育長に質問いたします。

◎影山教育長

今までにおいて、町立化することで学校を残したり、あるいは、市で生徒がどんどん減少している中で、特色のある学校を作ることがを要望するため、市民が動いた事例も聞いております。道教委はそういったことを否定するものではなく、要望していくことは可能だと思います。

◎菊谷市長

先日、会議に出席していた市長の2人が定数削減の高校を抱えており、教育長に削減反対の要望しております。ただ、この問題は非常にナーバスな問題です。前に道教委に対し、伊達市の流出率が非常に高くなっていることを話しました。市内の中学校を卒業して、ほぼ半分が市外の高校へ進学している。札幌に行っている子もいるので一概には言えませんが、子どもたちの多様な選択制を得るため、わざわざ通学してまで市外の高校へ通学しています。大人の議論はされていますが、子供たちのことを考えた議論は全くされていません。

個人的に思っているのは、受け身で再編を考えるのではなく、我々から再編についてどのように考えるのか。先ほど早瀬委員の質問もありましたように、教員が6名減らされることはわかりません。素人はそういうところはわからないから、きちんと説明して伊達市としてどういう選択が望ましいのか考える必要があります。

また、最近感じるのは、高等教育がないから伊達に移ってこないという方が結構おります。3間口の学校が出来た場合、本当に強い学校になれるのか。市民目線で子どもたちの立場で議論しないといけないのではないかと。道教委から言われるのを待つのではなく、反対運動をする時代ではないと考えます。その点についてみなさんはどのように考えますか。

◎早瀬委員

伊達の子供たちにとって魅力ある高校が残ってくれることが大事だと思います。以前の緑丘高校は市外から来るぐらいの学校でした。子供たちにとって魅力ある学校があることが大事で、じり貧でどんどん魅力がなくなって人気がなくなることは避けたいと考えています。

◎菊地委員

魅力ある学校を伊達に残したいと考えております。計画案は出しましたが、子供ファーストでできるだけ早く答えを出さないといけないと考えます。

◎平田委員

自分の子供は中学校1年生になります。高校進学の際に緑丘再編の時期になってしまうので、1間口減らされ緑丘の教育環境が変わるということは、進路を今後考えて勉強していかなければならないので、子どもたちの将来を左右する大きな問題です。伊達の子供たちにとってよりよい方向性に話し合っていくべきだと考えます。

◎菊谷市長

選択肢はたくさんあったほうが良いです。その他に意見はありますか。

◎岩本委員

伊達に力のある学校があることで、豊浦や洞爺から進学を目指して時間をかけて通わないですむことになり、地域力として経済効果も見込めるのではないかと思います。伊達の活気も出てくることになると思います。

◎菊谷市長

皆さんの意見をうかがっていると、統合がすべて正しいことにはなりません。座して待

つよりもいろいろと検討しながら、3学級になる前に方向性を示すべきではないかというご意見でよろしいですか。

[異議なし]

◎菊谷市長

それでは、関係者を含めて現役の高校生の意見を聞いたりする検討委員会を立ち上げていくべきだと思います。その点について誰が事務局を担うことになりますか。

◎影山教育長

教育委員会で検討委員会を立ち上げて進めていくことになります。平成33年度に3間口になるので道教委は3年前、秋までは無理にしてもスピード感をもって対応していかないといけないと考えております。早急に検討委員会を立ち上げて、統合を含めたなかでコンセンサスを得ていくようにしていかなければならないと思います。

◎菊谷市長

あらゆることを検討してベストな選択肢を選択するべきと考えます。教育委員会で検討委員会を設置して、議会とその旨連携して、市民やみなさんの意見を聞いていただきたいと思います。他にご意見ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎菊谷市長

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎高田企画課長

これもちまして、第5回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 (16時20分)